令和５年度
自己点検・評価書

佐賀大学

アドミッションセンター

Ⅰ．アドミッションセンターの目的と概要・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅱ．領域別評価（組織運営の領域）

観点①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
観点②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

Ⅲ　令和５年度アドミッションセンター報告書（添付資料）

Ⅰ　アドミッションセンターの目的と概要

佐賀大学アドミッションセンター（以下，「センター」と略記）は，センター規則（平成 19 年 9 月 19 日制定）に基づき同年 10 月 1 日に設置された。センター長，専任教員（1 名）及びアドミッション・オフィサー（1 名：令和 5 年度より着任）で構成される。センターの目的と業務内容は以下のとおりである。

（新）

【目的】

センターは，入学者選抜，入試広報，高大接続等に関する企画，立案等の業務を行うとともに，学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し，国立大学法人佐賀大学（以下「本学」という。）の教育研究の充実発展に寄与することを目的とする。

【業務】

1. 入学者選抜の制度，方法等の設計に関すること
2. 入試広報の企画，立案等に関すること
3. 高大接続，高大連携活動等の企画，立案等に関すること
4. **入学前教育の企画，立案等に関すること**
5. 入学者選抜等に係る調査研究に関すること
6. その他入学者選抜に関すること

（国立大学法人佐賀大学アドミッションセンター規則より抜粋）

センターで実施した調査・研究および活動記録は，年度末に「アドミッションセンター報告書」にまとめられる。本自己点検・評価書では，「令和５年度アドミッションセンター報告書」（添付資料）を根拠資料とし，点検および評価を行う。以下，同報告書は，「報告書」と略記する。

Ⅱ 領域別評価（組織運営の領域）

【観点①】 アドミッションセンターの業務が十分に遂行されているか。

観点①-1　入学者選抜の制度，方法等の設計に関する支援が十分に遂行されているか。

（観点に係る状況）

■　新規教員配置とアドミッション・オフィサーの設置

概算要求（教育研究組織改革分）に基づき，「入学前教育プログラムの開発（共通テキストの開発や教育環境の構築など），高大接続教育に関する研究」を遂行するための教員が新たに着任した。また，これまで特任講師が取り組んできた高校訪問を通じた高校との連携強化を維持するために，アドミッション・オフィサーを１名配置した。

■　入試問題作成支援を担う特任教員の雇用に関する方針の策定

質の高い試験問題の作成及び試験問題点検の強化のため，本学において入試問題作成の経験が豊富な退職教員を「特任教員（時間雇用職員）」として雇用し，入試問題作成の支援を行う制度を構築した。令和５年度は，数学と化学において特任教員を採用し，作題支援を行った。

■　令和７年度入試（新学習指導要領）における個別試験の作題方針の共有

令和７年度入試の個別試験の作題方針を共有し，公表可能なものについては積極的に発信するように情報を整理した。非公表のものについては，当該年度問題作成委員に引き継ぐ予定。

■　入学者選抜における選考に関する資料等の作成，保存等の方針策定

一般選抜，総合型選抜，学校推薦型選抜において作成した試験問題にとどまらず，評価の観点や基準を定めた審査基準，評価手続きや留意点に関するマニュアル，採点済み答案，採点表等などを収集し，当該資料を着実に保存するための方針を策定した。

■　英語外部検定試験活用の新ルール実施

外部検定のスコアが得点換算の基準を満たしていても共通テスト英語（リスニングを含む）の得点率が 50%を切る場合は，「みなし得点」としないルールを 2024 年度入試から実施した。

■　入学前教育の企画・立案

入学前教育に関する先行研究分析，他大学への調査とともに，令和 6 年度実施予定のプログラムデザインを行い，経済学部早期合格者を対象に交流会を実施した。

■　佐賀大学版ＣＢＴの開発と実施

学校推薦型選抜Ⅰ（経済学部，理工学部，農学部），総合型選抜Ⅰ（農学部）で「基礎学力・学習力テスト」を実施した。教育学部（英語分野）の総合型選抜Ⅰでは英語のスピーキングとリスニングの評価するテスト，理工学部（化学分野）の総合型選抜Ⅰでは，実験の映像をもとに観察に基づく思考力等を評価するテストを実施した。なお，令和７年度入試から医学部編入学及び農学部の総合型選抜Ⅰにおいて CBT を取りやめることになった。また，令和７年度入試に向けて「基礎学力・学習力テスト」の試験問題の精査を行った。加えて，CBT 事業の次なる展開として，大学入試センターが中心となって進める大学間 CBT 連携協定の加入を予定している。

■　入試の DX 企画

紙媒体の調査書をＡＩによって読み取り電子化する方法を模索し，株式会社ミラボと共同で実際の調査書を用いた試行的調査を行った

（分析結果とその根拠）

令和７年度入試の対応及び英語外部検定試験ルール変更などをはじめ，入試問題作成支援を担当する特任教員配置制度の構築など，アドミッションセンターから学部への提案を行っており，入学者選抜の制度，方法等の設計に関する支援を積極的に行っている。また，昨年度の自己点検・評価において課題として挙げられていた「『入学前教育の企画提案』において，入学前教育プログラムの開発（共通テキストの開発や教育環境の構築など）を計画しており，この計画を確実に実行することが求められる」に対して，新しい入学前教育プログラムの開発が進み，令和 6 年度の実施に向けて着実な進捗がみられる。

以上のことから，入学者選抜の制度，方法等の設計に関する支援は十分に遂行していると判断できる。

観点①-2　入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されているか。

（観点に係る状況）

■　各種説明会等の実施

受験産業等が主催する進学説明会（「報告書」pp.220-222）

高校や予備校等で実施する大学説明会（「報告書」p.222-223）

高校からの大学訪問において実施する説明会（「報告書」p.223）

九州地区国立大学合同説明会（「報告書」p.224）

高校教員対象の入試説明会（「報告書」p.224）

■　オープンキャンパスの企画・実施（「報告書」p.225）

■　佐賀大学案内冊子の編集（「報告書」p.225）
■　入試直前説明会（「報告書」p.225）
■　ジョイントセミナーの管理・運営（「報告書」pp.226-227）
■　継続・育成型の高大連携カリキュラムの開発・実施：（「報告書」pp.228-229）
■　きめ細やかな高校訪問（「報告書」pp.129-150）

（分析結果とその根拠）

コロナ禍が終息しつつあるなかで対面形式の説明会を徐々に展開することで，広報活動の範囲を少しずつ広げることができた。特に，きめ細やかな高校訪問によって，必要な情報を必要な時に進路指導現場に提供できている。

以上のことから，入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されていると判断できる。

なお，現在のアドミッション・オフィサーの任期が令和 6 年度までであり，翌年度以降に現行の業務を引き継ぐことのできる適任者を公募・採用することが課題として挙げられる。

観点①-3　入学者選抜に関する調査研究に関する業務が遂行されているか。

（観点に係る状況）

令和 5 年度は，以下の調査研究を行った（「報告書」を参照）。

①　令和 5 年度一般入試における志願者動向分析
②　令和 5 年度一般入試結果の検証
③　令和 5 年度学部新入生アンケート調査実施・分析
④　平成 31 年度入学者の追跡調査
⑤　令和 5 年度オープンキャンパス参加者アンケート調査実施・分析
⑥　令和 5 年度ジョイントセミナーに関するアンケート調査実施・分析
⑦　高等学校訪問による聞き取り調査
⑧　理工学部における改組後の志願者動向分析
⑨　経済学部及び理工学部入試制度検討のための分析
⑩　入学前学習に関するアンケート調査分析
⑪　特別選抜に関する志願者動向分析

（分析結果とその根拠）

志願者動向やアンケート調査の分析および入試データ分析の蓄積とともに，各学部から個別に依頼のあった検証なども精力的に行っている。

以上のことから入学者選抜に関する調査研究の業務が十分に遂行できていると判断できる。

今後も，入試制度や高大接続事業関連の改善に資する調査研究が実施されることが期待される。

【観点②】センターの組織運営が十分に行われているか。

（観点に係わる状況）

運営委員会は，「(1) センターの管理運営の基本方針に関する事項」「(2) センターの教員の人事に関する事項」「(3) センターの予算及び決算に関する事項」「(4) 第１４条に定める企画委員会が企画・立案し実施する事業等に関する事項」「(5) その他センターの管理運営に関する重要事項」に限定し，入学者選抜方法に関するもの，広報，高大接続，高大連携に関するものは各専門委員会で扱っている。令和 5 年度は，運営委員会が 4 回，入学者選抜方法等専門委員会が 3 回，広報・高大接続等専門委員会が 2 回実施された（「報告書」pp.232-235）。各委員会の構成メンバーは，「報告書」（p.235）の通りである。これらの専門委員会の活動を通して，センターの業務が遂行されている。なお，センターの活動等に関するすべての事務は，学務部入試課が行っている。

目的：入学者選抜，入試広報，高大接続等に関する企画，立案等の業務を行うとともに，学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し，佐賀大学の教育研究の充実発展に寄与すること

業務内容：

１．入学者選抜の制度，方法等の設計に関すること
２．入試広報の企画，立案等に関すること
３．高大接続，高大連携活動等の企画，立案等に関すること
４．入学前教育の企画，立案等に関すること
５．入学者選抜等に係る調査研究に関すること
６．その他入学者選抜に関すること

委員会名称	構成員
運営委員会	センター長，副センター長，専任教員，学部の入試委員
企画委員会	センター長，副センター長，専任教員，各学部の入試委員，入試課長
入学者選抜方法等専門委員会	センター長，副センター長，専任教員，各学部の入試委員，入試課長
広報・高大接続等専門員会	センター長，副センター長，専任教員，各学部から選出された教員，アドミッション・オフィサー，入試課長

（分析結果とその根拠）

定期的かつ必要に応じて運営委員会および専門委員会を開催し，センターの業務を着実に実行していることから，組織運営が十分に行われていると判断できる。